

泳友会 副会長 熊谷 三郎  
(35期・空 水球責任者)

本年4月より同期の吉岡君(海上)から泳友会副会長を引き継ぎました防衛監察本部にて監察官を務めている熊谷です。

昭和62年に防大に入校、素人で水泳部に入部し無謀にも水球の道を選び、日本水球界のレジェンドである名取正也監督のご指導を受ける中、沖野先輩(33期・空)から水球に関する体力、技術、精神の全てを導いていただき、まかりなりにも水球選手として成長を遂げることができました。平成3年に卒業し、平成10年頃までは何度かリーグ戦の観戦に行きましたが、残念ながら以降は足が遠のいていました。今般、泳友会副会長の職を引き受けるにあたり、空白の期間を埋め合わせるべく泳友会の活動に誠心誠意尽くすことをお誓い申し上げます。

ということで、早速、シーズン真っ盛りである関東学生水球リーグ戦の観戦に行ってみりました。場所は横浜国際プール、試合はメインプールに隣接するサブプールで行われ、環境の整った美しい会場に隔世の感がありました。

最新の情報を何点か紹介させていただきます。まずは、35年前と大きく異なる点として、選手登録されていない学生はベンチに入ることができず、試合に行ってもプールに入ることを許されないそうです。このため、アリーナ席で応援していた2学年数名と会話することができました。

現在の関東学生水球リーグは、2部リーグ制となっています。リーグ内の強豪である上位8校が1部に属し、それ以外の11校が2部に在籍しているため、2部リーグ内の各校の戦力にはかなりの差があります。また、2部リーグの中をA、Bの2つのブロックに分けてリーグ戦(総当たり戦)を行っていますが、A、Bの区分は、昨年度の成績の上位チームがA、下位チームがBではなく、A、Bにそれぞれ均等に振り分けているようです。

平成元年、35期生が3学年の時に関東学生水球リーグは3部制から4部制へ移行しました。当時、防衛大は3部に属し、5校が在籍していたため、他校と2試合ずつ全8試合を行い、その勝敗数や得失点で順位を決定していました。現在、防衛大は2部リーグAブロック(5校)に属していますが、他校と1回ずつ試合をしてその結果で順位を決定するようです。このため、この4回の公式試合で4学年の夏は終了します。

現在の水球部員数は圧巻の30名。毎日、清潔なシャワーが使用できるという甘い言葉で1学年を勧誘しているということでした(笑)。ただし、水球経験者は1名だけであるため試合内容は推して知るべし。2部リーグの総合順位も平成30年までは奮闘していたようですが、現在は下位に甘んじています。部員が多いことは喜ばしいことですが、小原台の制限された環境や25mの地下プールで、未経験者が

ほとんどを占める30名の部員が効率的な練習をするためには、より多くの努力が必要であると感じました。

最後に、35年前と大きく異なる点をもう一つ。現在のルールでは、ベンチにいる監督やコーチは、ベンチ内で立ち上がって選手に大声で指導を行うことはできないようです。他の大学の試合で、ある大学の監督が興奮して立ち上がって指導していると試合が中断され、1回目は口頭注意、2回目はイエローカードが出されていました。一方で、当該大学を卒業したばかりと思われるOBがアリーナ席で後輩たちを大声で叱咤し、審判のジャッジに対する不満をこれまた大声でぶちまけていたのが大変滑稽でした。

現役時代にお世話になった橋本先輩(26期・空)がマスターズに出場し、数々の輝かしい成績を収めていることが泳友会HPに掲載されています。元々のパフォーマンスの低い自分には関係ないことだと思っていましたが、学生たちの頑張っている姿を見て、もう一回プールに戻ってみようかなというわずかな闘志が湧いてきました。

冗長な挨拶となってしまいましたが、泳友会に所属する自衛隊OBの諸先輩と現役隊員との懸け橋となれるよう積極的に活動に参加するとともに、全力を尽くして学生の応援に貢献してまいります。